

04 ささえる



土岐さんご家族と片見さん（左から、土岐優真くん、愛美さん、和暉くん、片見礼子さん）

ファミリーサポートセンターをご存じだろうか。子育ての援助をしてほしい人を、援助をしたい人がサポートする事業で、仕事を持つ保護者はもちろん、子育て中の保護者が、安心して子育てができるよう「地域ぐるみで支え合う」事業だ。利用会員の土岐愛美さん、協力会員の片見礼子さんに話を伺った。

本

市に引っ越してきて約4年。自身は茨城出身の土岐さん。結婚して都内に住むも、環境の良い田舎で子育てが

したいと思い、つくばみらいに引っ越してきたという。取材に伺ったこの日、協力会員の片見さんが、2カ月半になる土岐さんの二男・和暉くんを抱きながらあやしていた。

—実際に利用してみてもうですか。

土岐 誰が来るのかわからないっていうのと子どもとの相性が少し心配でした。最初は、来てもらって色々やってもらうことを考えていたんですけど、送り迎えだけやってもらうのが、子どもに一番負担がないかなって。試しに1カ月使ってみただけです。そうしたら、自分もすごく楽になった。でも、片見さんの車に長男（優真くん）がどうしても乗れなくて（笑）。片見 乗ってくれなかったね（笑）。それならお母さんが優真くんを送り迎えして、私が和暉くんを見ていた方がいいんじゃない、って。

土岐 それを提案してもらって「あ、そういう使い方もあるのか」って思いました。そういう使い方は、私も片見さんに言われるまで想定していなかったの

で、結果的に誰に対してもストレスがなくなっただけでいけるのかになって思います。

—「すごく楽になった」のは具体的にどういうところですか。

土岐 保育園の送り迎えは私が行くので、まず優真の精神状態が良くなって、安定したっていうのがありますね。あとは、夕方の方の買物です。やっぱり一人で行った方が早いので、買物に行きたいときは早めに家を出て、その足で保育園にお迎えに行つてと言う風に、ちよつと好きに使える1時間になっています。和暉もずっと寝ているわけでは

ないので、泣いたらあやしてくれる。一人ではどうしても作業を中断してしまうので。短くても何かやりたいことに使える1時間が確保できているというのが、すごくありがたいですね。

今

回の取材では、土岐さんと片見さんの信頼関係を感ずることができた。これもまた「地域ぐるみで子育て」の一つの形であると思う。子育て支援の新しい形を知るいい機会になった。

VOICE ~声~

ファミリーサポートセンターの協力会員さんに聞きました！
「やりがい」はどんなところですか？



すぎた みどり
杉田 緑さん

最近は核家族が多いですよ。誰の手も借りられない方もいて、ちょっとその辺に買物に行くのも行けない。赤ちゃんだと少しの時間でも目を離せないで、1時間とか2時間とか見てあげると、「ありがとうございます」と感謝してもらえるので、すごくうれしいですね。



あきやま のぶえ
秋山 宣江さん

子どもの成長が見られるところですね。言葉を話せなかった子が、何カ月かお付き合いしていくと「ぶーぶー」って言えるようになったり、初めは顔を見ると泣かれちゃったりっていうのがあったんですけど、それが途中から私の姿を見ると笑顔で飛びついてくるようになって。そういうのがうれしいですね。